九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Layout Design Study for the Medium-sized Historic Museum in China : Exhibition Space Layout Research of Museum Design

沈, 羅蘭

https://doi.org/10.15017/1500739

出版情報：九州大学, 2014, 博士（芸術工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏　　名	沈　羅蘭
論　文　名	Layout Design Study for the Medium-size Historical Museum in China-Exhibition Space Layout Research of Museum Design （中国の中型歴史的な博物館における空間配置のモデルに関する研究－博物館の展示陳列空間の配置デザイン）
論文調査委員	主　査　　九州大学　教　授　　森田　昌嗣 副　査　　九州大学　准教授　　平井　康之 副　査　　九州大学　准教授　　池田　美奈子

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

博士(芸術工学)の学位申請のために提出された本論文は、近年中国で年々建設が増加傾向にある博物館の適切な展示空間デザインのためのレイアウトモデル化とそのデザイン方法を提案することを目的とした論文である。近年、博物館は中国で都市開発を促進するための要といえる施設であり、また地域経済発展のための中心的な役割を担うようになった。各都市の博物館の建設は、中国国内の文化的な機能と影響力を向上させるとともに、都市のイメージを向上させることができる。そのため中国の博物館建設は、各都市において急ピッチに進められている。しかし、中国内の博物館が多数開発されているにもかかわらず、博物館計画に対応する博物館デザイン方法に関する学術的な研究が少なく、これまでの計画・設計者の経験を基に進められているのが大半である。特に、博物館の展示レイアウトのデザインのための研究はほとんど行われていない。そこで本研究は、中国の博物館、とりわけ多くの都市で建設や計画が進められている、中規模の歴史博物館を対象に、理論的そして実践的な展示空間デザインに関するレイアウトモデル化とデザイン方法を導出するものである。本論文は、7 章で構成されている。中国の博物館事情などの研究の背景、そして目的・方法、既往研究などを整理した第 1 章。本論となる第 2 章は、博物館建設が増え始めたこの 5 カ年を中心に博物館施策の調査分析を行い、また欧米での博物館の展示デザイン方法を中国へ導入することの課題等を抽出している。第 3 章では、中型歴史博物館の展示空間の実態調査を通して、3 つのレイアウトタイプ(タンデムタイプ、パラレルタイプ、ロビータイプ)に分類できることを導いている。第 4 章においては、博物館に訪れる人々と展示空間との関係性に関する調査から訪れる状況別に考慮すべき課題を絞り込んでいる。第 5 章では、筆者が実際に計画に携わった 4 件の博物館を事例に、博物館の建築空間と展示空間について展示レイアウトと利用動線の関係から 26 の歴史博物館のレイアウトパターンのモデル化(レイアウトモデル)を行っている。つまり、利用動線から 3 つのタイプ(パス、ポケット、コンパイン)を見出し、展示空間での 3 つのレイアウトタイプとの相互関係から展示空間のレイアウトモデルを導出している。第 6 章は、筆者が現在、計画に携わっている Weinan 博物館をケーススタディとして、第 5 章で導いた 26 のレイアウトモデルに基づいて展示デザインを行い、このモデル化の有用性を検証している。そして第 7 章では、一連の研究結果から考察を行い、本研究成果が現代の中国の中型博物館の建築空間に合致することができるだけでなく、利用者にとって適切に鑑賞できる展示レイアウトデザインの方法となり得ることを示している。総括としては、本研究で提示された展示空間のレイアウトモデル化は、中国の博物館計画段階において適切な展示デザインの立案に貢献できること、そしてこのモデル化を用いたデザインプロセスは、博物館の展示計画および設計段階での実践的デザイン方法研究に貴重な示唆を与える内容を提示したものである。

以上のように、本研究は、着眼点の独自性と共に、既に国際会議等で採択された学術論文を含む研究成果に結実しており、得られた知見は芸術工学研究を含め社会に寄与するものと評価できる。したがって本審査委員会は、厳正なる学位審査の結果、本論文を博士(芸術工学)の学位に値するものと判断した。